

— 近畿大学 —

2月12日 前期 B (国際・経済・総合社会学部) 英語

解答

I

- [A] 1. エ 2. ウ 3. イ
[B] 4. ウ 5. ア 6. エ

II

7. ク 8. エ 9. ウ 10. ア 11. カ
12. イ

III

13. エ 14. エ 15. イ 16. イ 17. ウ
18. ア 19. イ 20. エ

IV

21. エ 22. ウ 23. ウ 24. ウ

V

25. ア 26. イ 27. エ 28. イ 29. ウ

VI

- [A] 30. オ 31. エ
[B] 32. ア 33. オ
[C] 34. エ 35. ウ
[D] 36. オ 37. イ

VII

38. ウ 39. イ 40. ア 41. イ 42. ウ
43. ウ 44. ウ 45. オ (44・45 は順不同)

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解説

大問Ⅲ

13. 文構造から適切な品詞を問うもの。直前の **bring** が他動詞であるため目的語になる名詞が必要である。よって、選択肢エ. **benefits** が適切である。選択肢ア. **a benefit** の **a** は形容詞 **long-term** の前につけるべきで、この位置に置くのは不適切である。
14. 数量代名詞の問題。「6つの理由のうち4つを知っているのだから、残りの2つを教える」という文脈であり、閉じた集合内の「残りすべて」は **the other** ～ と **the** をつける必要がある。よって、選択肢エ. **the other** が適切である。
15. 関係代名詞 **what** を使った慣用表現 **what S is/am/are (today)** 「現在の(今日の)S」を問うている。よって、選択肢イ. **what** が適切である。
16. **deny** は目的語に **Ving** 形を取る動詞である。よって、選択肢イ. **doing** が適切である。
17. **There is** 構文の付加疑問文を問うもの。**There is no one** ～ と前が否定文なので、選択肢ウ. **is there** が適切である。
18. 現在完了形の受け身を問うもの。一度能動態に書き換えて確認してみよう。
(能動態) **the new computer system has made the teachers' jobs very easy to handle.**
(受動態) **the teachers' jobs have been made very easy to handle (by the ~ system).**
よって、選択肢ア. **been made** が適切である。
19. 「～も...ない」という表現は、**not** と **either** の組み合わせで表現する。よって、選択肢イ. **either** が適切である。
20. 仮定法未来(**if S were to V** 原形～ 「仮に～するとしたら」)と **if** の省略を問うもの。元の英文から考えると以下の通りである。
If Susan were to know the truth, what would she do?
↓ **were** を文頭に移動させ、**If** を省略すると
Were Susan to know the truth, what would she do?
よって、選択肢エ. **to know** が適切である。

大問VI

[A] 意志の be to 構文(if S is/am/are to V 原形～「もし～したいと思うなら」)、さらに succeed in Ving 「V するのに成功する」の2つの項目を問うている。

If you (are) (to) (succeed) (in) (running) (a company) abroad, you should know the customs of that place.

[B] 完了動名詞「～したこと」を否定するときは、その直前に not を置くことを問うている。

You must (be) (upset) (about) (John) (not) (having written) you for a long time.

[C] 関係代名詞 what に連鎖関係詞を絡めた表現(what S think / be sure + V ～「S が～だと思ふ/確信するもの/こと」)を問うている。

It is of most importance for us to do (what) (our coaches) (are) (sure) (is) (effective) in a game.

[D] 倍数(一) the 名詞(...) of ～「～の～倍 ...で」という倍数表現を問うている。

Ms. Watson had earned (nearly) (three times) (the) (amount) (of) (money) as she did through this business last year.

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！